

白血球の種類と外観

▶ 似ているようで結構違う白血球たち

白血球は、外観の特徴から大きく次の5種類に分けられます。まずは顆粒球である好中球、好酸球、好塩基球から見てみましょう。これらの名称は、染色したときの顆粒の色調からつけられました。

好中球

白血球の半数以上がこの好中球です。赤血球よりやや大きい(12~15 μm)細胞です。名称は、染色すると

- **ピンク色に染まる小型の顆粒**(好中性顆粒)

が細胞質にあることに由来します。

好中球は棒状の曲がった核をもつ

- **棒状核好中球**

と、いくつかの葉のような形に分節した形の核をもつ

- **分葉核好中球**

の2種類に分けられます。末梢血中の好中球の多くは分葉核好中球です。但し、これらを区別せず好中球分葉核球と総称することもあります。

好酸球

白血球の2%程度を占めます。好中球より少し大きい(13~18 μm)細胞です。2つに分葉した核があります。名称は、染色すると

- **赤く染まる大型の顆粒**(好酸性顆粒)

が細胞質に数多く見られることに由来します。

好塩基球

白血球の中では最も少なく(2%未満)、好中球と同じくらいの大きさ(12~16 μm)の細胞です。名称は、染色すると

- **暗紫色に染まる大型の顆粒**(好塩基性顆粒)

が細胞質にあることに由来します。

続いてリンパ球です。リンパ球は、他の白血球と比べるとやや小さいです。

リンパ球

白血球の30%程度を占め、ほとんどは赤血球と同じか若干大きい(7~16 μm)細胞です。核は類円形で、細胞質に対して大きめなのが特徴です。顆粒はほとんどありません。

リンパ球はさらに、役割から

- **B細胞, T細胞, NK細胞**

に分けられますが、外観からこれらを見分けることは難しいです。

最後は単球です。他の白血球よりも一回り大きいものが多いです。

単球

白血球の10%前後を占め、好中球より大きい細胞(13~21 μm)です。

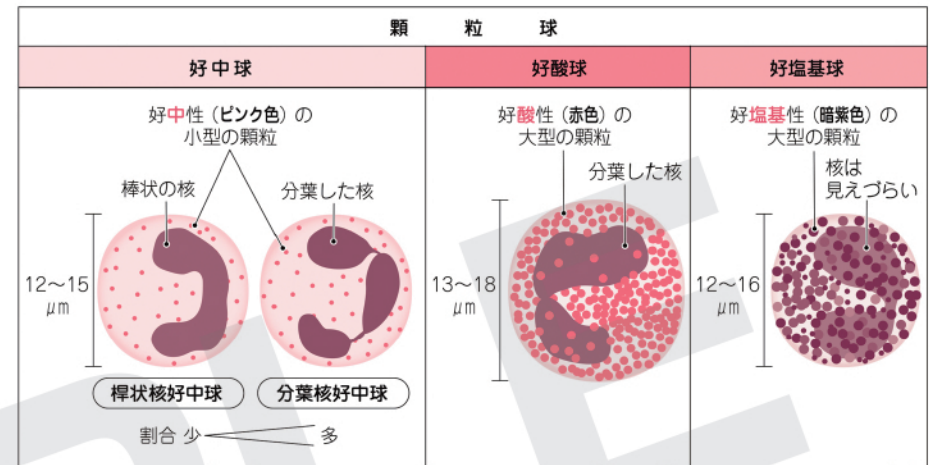
- **核の形は不規則**

で、切れ込みがあるものや、馬蹄形や腎臓形のものもあります。細胞質に微細な顆粒や空胞が認められるものもあります。

末梢血の血液細胞の観察には、主に**メイ・ギムザ染色**とよばれる方法が用いられています。



16 白血球の種類と外観



全白血球に占める割合

